

④ 温室効果ガス排出量評価

工場（製造業）

1. 温室効果ガス排出量

- 2022 年度の排出量は 138.6t-CO₂ となっています。排出量のほぼ全てがエネ起源 CO₂ で、99.7%であり、それ以外の温室効果ガスは 0.2%以下のわずかな割合です。
- 全体の傾向を見ると、2017 年度までは減少傾向でしたが、2018 年度に急激に排出量が増えており、それ以降が再び減少傾向になっているなど、乱高下している状況です。

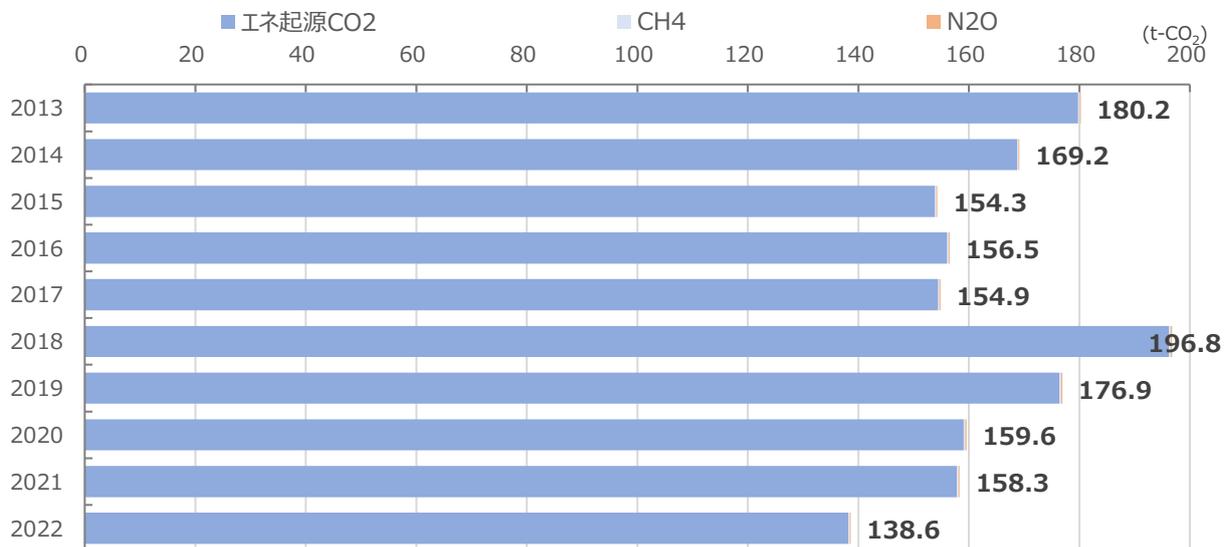


図 温室効果ガス排出量

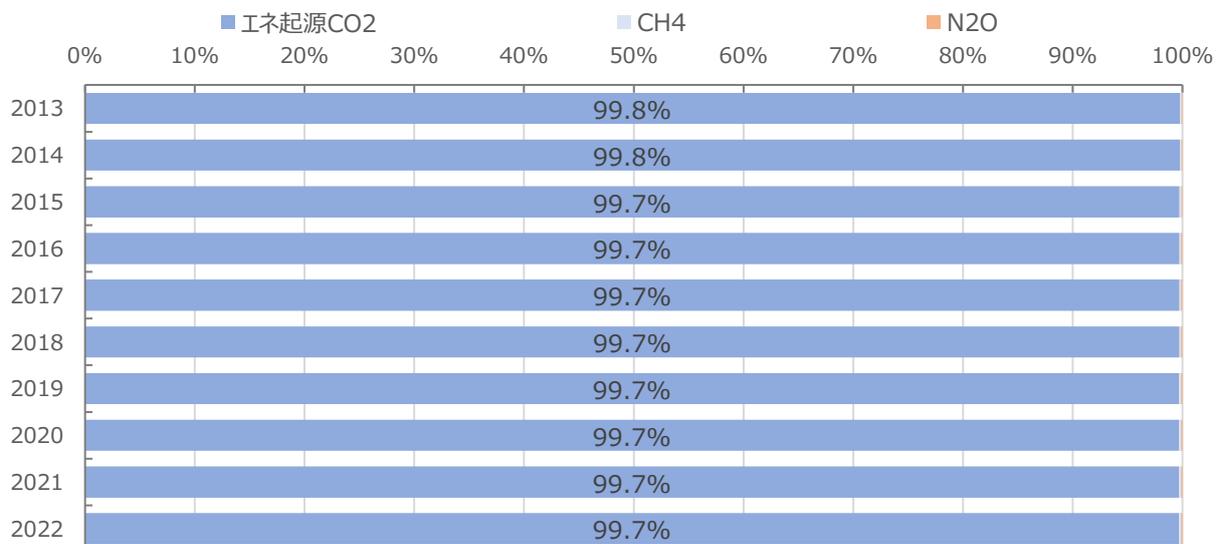


図 温室効果ガス排出量の割合

2.エネ起源 CO₂ 排出量

- 排出量の大半を占めるエネ起源 CO₂ の内訳を見ると、2022 年度は、灯油が最も多く 49.3%、次いで電気が 45.9%、排出量のほとんどがこの 2 つによるものでした。
- 2018 年度に排出量が多く増加した部分は、灯油と電気の使用量が大きく増加したことが要因でした。電気の使用量はその後例年並みに戻りました。灯油の使用量は 2021 年度頃まで使用量が多い状態が続いていましたが、2022 年度には落ち着いた形となっています。



図 エネ起源 CO₂ 排出量

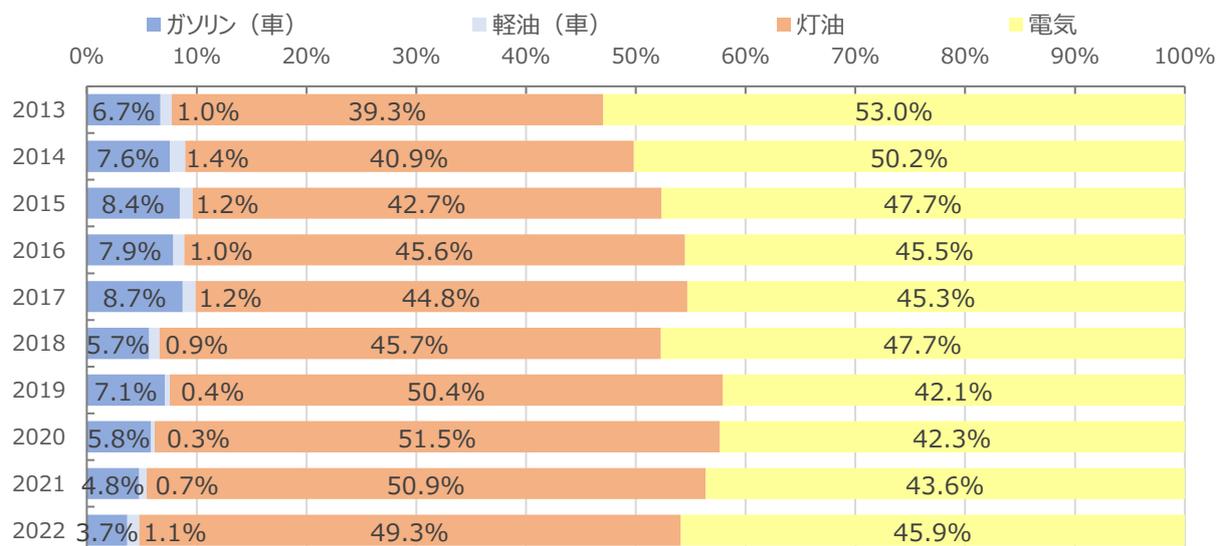


図 エネ起源 CO₂ 排出量の割合

- 電気の使用量と排出量の推移を見ると、使用量は横ばいで推移していますが、排出量は微減傾向であることが分かります。これは、電気の排出係数が電力会社ごとに設定されていることに加えて、排出係数が毎年変わることが要因で、単純な使用量と比例しないためです。
- このため、電気使用量が横ばいで推移していても、電力購入先の排出係数が減少傾向であるため、結果として電気の排出量が下がっている結果となっています。

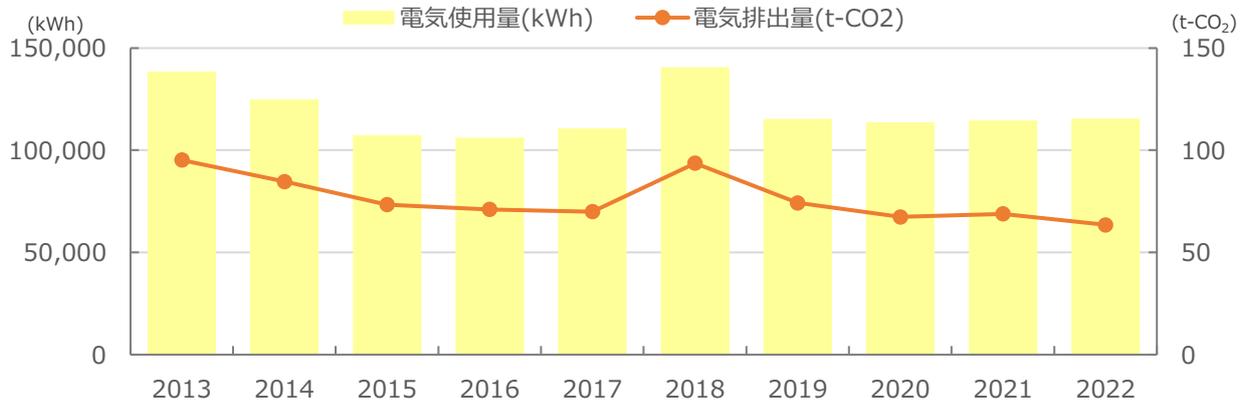


図 電力使用量と電気からの排出量の推移

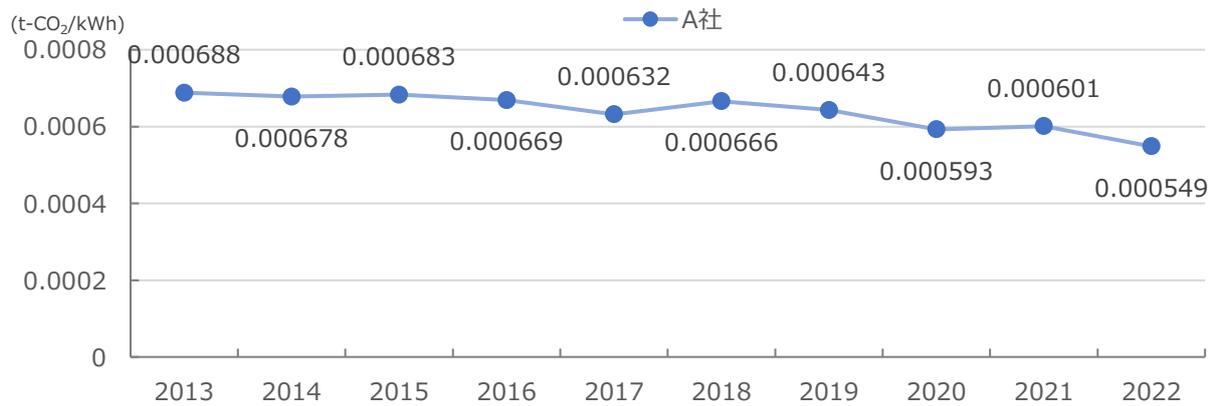


図 北海道電力の排出係数の推移

3.温室効果ガス排出量の詳細

- エネ起源 CO₂ 以外の温室効果ガスもわずかに排出しており、その内訳は以下の通りとなっています。
 - CH₄とN₂Oは、家庭用機器で灯油を使用したことにより発生しています。

表 温室効果ガス排出量の詳細

項目	該当ガス			排出量 (t-CO ₂)	
	CO ₂	CH ₄	N ₂ O	2022	
	エネ			排出量	割合
ガソリンの使用(車)	●			5.1	3.7%
軽油の使用(車)	●			1.5	1.1%
灯油の使用	CO ₂			68.2	49.2%
	CH ₄	●	●	0.24	0.2%
	N ₂ O			0.17	0.1%
電気の使用	●			63.4	45.8%
合計				138.6	100.0%

※四捨五入した数字を表示しているため、総数と内訳の合計が一致していない場合があります。

※軽油の2022年度の使用量は不明のため、2013～2021年度の平均値分の使用量と仮定しています。